

氏名(生年月日)	モリ 森	ヒア 英	キ 記
本籍			
学位の種類	医学博士		
学位授与の番号	乙第902号		
学位授与の日付	昭和63年2月19日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)		
学位論文題目	冠状動脈造影による冠状動脈硬化の所見と血漿脂質濃度との関係についての研究		
論文審査委員	(主査) 教授 広沢弘七郎 (副査) 教授 平田 幸正, 教授 重田 帝子		

### 論文内容の要旨

#### 目的

冠状動脈造影(以下 CAG と略す)所見を血漿脂質値と対比し, 冠状動脈硬化に対する脂質異常の影響を検討した。

#### 対象

(1) 神戸川崎病院で CAG を施行した291名の血漿脂質値と, CAG 所見を点数化したものとを対比し, 更に年代別に分けて検討した。

(2) CAG を2回施行した24症例において, 冠状動脈病変の進行と脂質との関係を検討した。

#### 結果

(1) F-Score (Friesinger's scoring) (CAG 所見を点数化したもの)は, 年齢と正の相関( $r=0.31, p<0.001$ ) HDL と負の相関 ( $r=-0.30, p<0.001$ ) を示した, TG 及び総 Cholesterol 値とは相関を認めなかった。

(2) 高齢層ほど, 有意病変を有する症例の比率, 平均有意病変枝数, F-Score が, 高い傾向がみられた。

(3) 総 Cholesterol が250mg/dl 以上の群及び TG が150mg/dl 以上の群は40歳代において, HDL が35mg/dl 以下の群は60歳未満において, 1枝以上の狭窄を有する症例の比率, 平均有意病変枝数, F-Score が高かった。他の年代では差を認めなかった。

(4) 動脈硬化指数 SI (Cholesterol-HDL/HDL) が6以上の群は, いずれの年代においても, 1枝以上の狭窄を有する症例の比率, 平均有意病変枝数, F-Score が高かった。40歳代において, その傾向は顕著であった。

(5) 2回 CAG を施行した症例では, 総 Cholesterol 値と F-Score は正の相関 ( $r=0.62, p<0.01$ ) を示した。

#### 考察

脂質異常が, 虚血性心疾患の発現に關与する事が従来より報告されている。しかし今回の調査対象全体でみた場合, CAG 所見の重症度と相関するのは, 年齢と HDL のみであった。これを年代別に検討すると, 40歳代において, 総 Cholesterol, TG 値の異常と CAG 所見の重症度との間に相関を認めた。HDL は60歳未満, SI は全年代において相関を認め, 特に40歳代で顕著であった。また2回 CAG を施行した症例について見ると, 総 Cholesterol 値は冠状動脈硬化の進行と相関していた。

以上より冠状動脈硬化には脂質以外の要素も關与し, 加齢もそのひとつと思われる。そのため脂質異常の影響は高齢になると目だちにくくなっている。しかし40歳代では明らかに脂質異常の影響を認めた。

#### 結論

冠状動脈硬化に対する脂質異常の影響は, 40歳未満ではまだ明らかではなく, 40歳代より出現し始め, 高齢になると目だちにくくなる。それは脂質以外の要素が關与しているためであり, 加齢もそのひとつと思われる。しかし2回 CAG を施行した症例でみると, 高 Cholesterol は, 冠状動脈硬化の進行に關与していた。

## 論文審査の要旨

虚血性心疾患の原因は冠動脈の動脈硬化性変化であり、最終的にはその狭窄、閉塞をきたすことにある。その為の risk factor は数多く挙げられているが、血清脂質はその第一にあげられる。本論文は血清脂質と冠硬化病変の関係を冠動脈造影により確かめ、症例によっては複数回の検査を行って病変の進行を確かめ、risk factor との相関を調べ、加齢の影響にまで及んだものである。

臨床循環器病学に資するところある研究である。

### 主論文公表誌

冠動脈造影による冠動脈硬化の所見と血漿脂質濃度との関係についての研究

東京女子医科大学雑誌 第57巻 第12号  
1460～1471頁（1987年12月25日発行）

### 副論文公表誌

1) PTCA—方法と評価法について

病態生理 3 (7) 572～580 (1984)

2) ウシ、ブタ、およびヒトインスリンに対して、アレルギーとインスリン抵抗性を示したインスリン依存型糖尿病の1例  
糖尿病 27 (suppl. 1) 99～105 (1984)

3) 急性心筋梗塞患者のリハビリテーション看護：リハビリテーションが遅延した事例を通して  
看護学雑誌 49 (8) 873～879 (1985)